

「本土唯一、軍政敷かれた館山」

米軍上陸など写真17点を公開

七十年前の九月一日は日本が降伏文書に調印した日。翌三日には米兵が館山湾から本土に続々と上陸した。そんな終戦直後の貴重な写真を、館山市の郷土史研究者で、NPO法人安房文化遺産フォーラム代表、愛沢伸雄さん(67)が米国の博物館から入手した。同市の南総文化ホールで開催中の「戦後七十年展」で公開されている。

(北浜修)



「館山に上陸する米軍」(1945年9月3日)＝いずれも米テキサス軍事博物館から入手した愛沢さん提供

地元NPO代表が入手



愛沢伸雄さん

愛沢さんは当時の資料や写真などを収集しており、今回新たに米テキサス軍事博物館から十七点の写真を提供された。いずれも米側の撮影とみられる。注目されるのは「館山に

千葉から語り継ぐ戦争



①館山の病院(1945年9月12日)
②館山のおみやげ店(同年9月20日)

上陸する米軍」。一九四五(昭和二十)年九月二日、東京湾に停泊した米戦艦ミズリ号上で日本側全権の重光葵外相らが出席し、降伏文書の調印が行われた。翌日に米兵約三千五百人が館山湾へ上陸する様子を撮影した一枚だ。愛沢さんによると、これまで日本で見られた同じカメラの写真に比べて、トリミングされておらず左右の幅が広い。右端に背広姿とみられる男性が写っている。「館山に設置された政

府の出先機関、館山終戦連絡委員会的人物ではないか」とみる。愛沢さんの研究では、降伏調印に先立つ八月三十日、連合国軍最高司令官マッカーサー元帥が厚木飛行場(神奈川県)に到着。その同じ日に米軍の先遣隊(百人規模)が館山入りし、同委員会と本隊上陸について事前協議したことが分かっているという。ほかの写真は、当時の米兵や市民の様子をうかがわせ、興味深い。「館山の病院」(撮影は九月十二日)では、院内で米兵が日本人医師と患者の様子を見ている。左端の人物は日系の米兵で通訳しているとみられる。「館山で「軍政」を敷いたと主張する。米軍が三日に市内の学校、劇場や酒場の閉鎖、市民の夜間外出禁止などを命令したことによる。これは同委員会が政府を通じて米側に中止を求め、解除された。米側が当初、日本を軍政統治する計画だったことは知られている。二日の降伏調印直後、連合国軍総司令部(GHQ)は立法、行政、司法三権の制限や、円を廃止し軍票の配布などを通告。翌三日に発表予定だったが、東久邇宮稔彦王内閣(当時)の重光葵外相らが強硬に反対し、施行されなかった。軍票配布などはなかったもの、館山が四日間「軍政」下にあったとする背景

を、愛沢さんは「米側には敵地へ乗り込むように日本人への警戒感があった。館山は東京湾の入り口で海軍の基地もあったが、東京や横浜から離れており、占領のモデルになると見ていたのでは」と説明する。今回入手した写真を見て、「終戦直後、米兵と館山市民は良好な関係だったことがあったため分かる貴重なもの。友好的な日本人の態度は、その後の米側の対日占領政策に影響を与えているからだ」と話す。戦後七十年展は八日まで。午前十時～午後五時。七日は休館。入場無料。また五、六の両日、南総文化ホールと市コミュニティセンターに各地で戦跡保存活動をする関係者らが集い「戦争遺跡保存全国シンポジウム」を開く。愛沢さんは六日の会場で米軍の館山上陸について発言する予定。問い合わせは、安房文化遺産フォーラム☎0470(22)82711へ。